

(公表用)

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」(平成28年度採択)

事後評価結果

番号	研究名	研究代表者	評価
28-5	アジア都市における「場」の機能を持った道路設計・運用に関する研究開発	横浜国立大学 教授 中村 文彦	B
<p><研究の概要> ※成果報告レポートより引用</p> <p>交通結節点徒歩圏の道路空間について、人間中心の都市活動拠点化を実現するため、大きな研究目的として、(1)国際的に研究・実践が進む「場(Place)」の概念・計画・運用手法を総括し、同観点からアジア都市における自生的な道路の利用・使用・占有状況の評価を行うこと、(2)アジア都市の自生的「場」を交通結節点運用に組み込むことへの受容可能性を明らかにすること、(3)そうした結節点の運用を支援するツールの提案と実用性検証を設定した。得られた成果から、国内自治体レベルで「場」の計画・運用を導入できる技術パッケージを構築する研究開発である。</p> <p><事後評価結果></p> <p>「場」の形成に向けた技術パッケージを作成した改良を加えている点は評価できる。しかし、技術パッケージの具体像が曖昧であるとともに、国内都市や、コンケン以外のアジア都市にどう適用されたかが明らかでない。また用語の定義が明確でない点や研究成果の適用範囲が限定的と考えられる点などの課題も見受けられる。このことから、研究目的は概ね達成され、研究成果があったと評価する。</p> <p><参考意見></p> <ol style="list-style-type: none">1. 現地の事情などにより社会実験が想定通りに実施できなかったことはやむを得ないと考えられるが、本研究の主要項目である「場の機能を持った道路設計の検討」については、抽象的議論と欧米の知見のレビューの範囲を超えることができなかつたと評価する。この点については、アジア都市に適用するにあたっての理論的検討が十分に加えられると良かった。2. 技術パッケージ内の「市民のモーダルシフトの実現」、「人的資源育成効果」について、さらなるデータの蓄積と研究の発展を期待したい。3. 実務の場面において技術パッケージをどう利用していくのかといった手筈を用意できると良かった。4. エネルギーハーベスティング技術は、場の理論を踏まえた技術パッケージの構築に必須の条件ではないように思われる。むしろ、場の理論や技術パッケージをわかりにくくさせているように感じる。5. 技術パッケージにおける「エネルギーハーベスティング技術」の必要性がよくわからない。歩行者カウンター、歩行者センサーとしての役割であるならば、他の技術の利用も柔軟に考えるのが良いのではないか。			

※本事後評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第37回新道路技術会議において審議したものである。